



ジグモ

桜は春の季語、春の象徴として文学全般に非常によく使われています。また、桜といえば花見を連想しますが、今の花見の原型ができたのは江戸時代で鑑賞の対象は「ヤマザクラ」で遠目から眺めるスタイルだったようです。

その後、花見の宴にもってこいな種類の「ソメイヨシノ」が登場し全国に広まりました。

桜の世界にも流行があるようで、最近では「河津桜」の人氣が高く地域のシンボルとしても多く植えられています。

この写真はふれあいの村に咲いた河津桜です。



今、ふれあいの村では・・・

朝は氷点下になる日々が続いています。外の水槽には水面に氷が張っていますが、メダカたちは元気に泳いでいました。

◆小鳥が元気に石垣の周りを飛び回っていました。ルリビタキです。背中全体が青い色のオスに比べ、メスは尾だけわずかに青色です。立派な青色になるには三年程かかるそうなので、見つけたルリビタキは三才以上でしょうか。

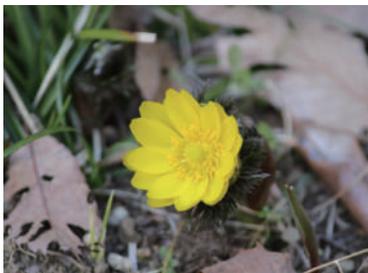
◆フクジュソウを見るために丸太の森へお邪魔いたしました。鮮やかな黄色の花を咲かせていましたが寒さの影響でしょうか、今年は例年より咲き始めが少し遅いようです。「福寿草」と書きますが、春を告げる縁起物の植物として古くから栽培されてきました。春の訪れまであと少しです。



コウバイ



オオカマキリの卵



フクジュソウ



ジャゴケ



鳥の羽



ルリビタキ

三月十五日〜十九日

菜虫とは大根・カブなどアブラナ科の野菜類を食べる昆虫の総称です。

さなぎが冬を越えて蝶となつて生まれ変わり、そのきれいな姿を私たちの前に現してくれます。

陽射しも暖かくなりいよいよ春の到来といったところです。

中国の荘子が蝶になつた夢を見たという故事（胡蝶の夢）からとつて昔の人々は蝶を「夢見鳥」「夢虫」とも読んでいました。

蝶の舞う姿は儚く美しいですね。



★フィールドワーク★

野外を探検・調査・観察することをフィールドワークといいます。



オオイヌノフグリ



ナナホシテントウ



シカ足跡



タチツボスミレ

日陰の場所は植物の葉に霜がつき、うっすらと白くなっています。日中には見られない景色なのでフィールドワークも新鮮なものがあります。

◆霜が解けて太陽の日差しが当たる午後、葉の中にナナホシテントウを見つけました。テントウムシは「天道虫」と書きますが、和名の由来はテントウムシの飛び方にあり、枝先などから上に飛び立つ姿をお天道様に飛び立ったと解釈したことが由来とされています。

◆オオイヌノフグリがアスファルトの片隅で小さな花を咲かせていました。小さいですが綺麗なコバルト色の花はよく目立ち、別名「星の瞳」とも呼ばれています。

寒さに強く、早春の今頃の時期は周辺に花が少ないため目立ちます。もともとは外来種で明治初年頃に日本に入ってきたとされ、その後帰化しており、現在では春を知らせる風物詩の植物として親しまれています。

【イベントのご紹介】

※お問合せは、足柄ふれあいの村に電話（0465-72-2010）されるか、『足柄ふれあいの村』のホームページにアクセスしてください。

※今後、変更等がある可能性がありますので『足柄ふれあいの村』のホームページを随時ご確認ください。

「あしがらファミリーキャンプ①(予定)」のご案内

大人気の収穫体験の企画、今回は宿泊 Ver. です！

ふれあいの村周辺の畑で旬の野菜を収穫し、野外炊事を行います。

採れたての新鮮な野菜を使った料理はおいしいこと間違いなしです！

実施日) 令和7年4月19日(土)～20日(日)【1泊2日】

会場) 足柄ふれあいの村

対象) 家族・親子

定員) 60人

参加費) 中学生以上：8,000円/3歳以上～小学生：6,000円

申込期間) 令和7年2月5日(水)～令和7年3月14日(金)

★来月のファミリーコミュニケーションの日：4月6日(日)

10:00～12:00《自然観察会》春るんるん♪春の花や虫さがし！

※参加費は無料です。

※ファミリーコミュニケーション運動の一環として、毎月、第一日曜日に開催中です。

※申込み・問合せは電話などでお気軽にどうぞ。

神奈川県立足柄ふれあいの村（南足柄市広町1507）

電話：0465-72-2010 F A X：0465-72-2013

指定管理者：株式会社アグサ（連携協力：関東学院大学）

所管課：神奈川県教育委員会教育局支援部
子ども教育支援課

U R L：http://www.ashigara-fureai.com/